



小特集：センター試験リスニングテスト初実施

センター試験リスニングテストの 分析と対策

小森清久



2006年度センター試験リスニングテストは、その平均点(36.25/50点)からもわかるように平易であった。読み上げ速度(平均速度135wpm, 試行テストでは150wpm)にその一因があったのかもしれない。

事前に質問や選択肢を短時間で読む読解能力が要求される問題で、正答率の差が見られた。読解力の差がそのままりスニング力にも影響する結果となっていることは、当然ではあるが興味深い。

以下、受験生のレベル間で点差がついたと思われる問題に的を絞り、出題形式と内容を分析し、大問別に網羅した対策をまとめてみた。

第1問【対話文イラスト選択問題】(20～30語程度の対話を聴き、イラストや数字などを選択する問題)

問1 What time did the flight arrive?

- ① 2:30 ② 3:30 ③ 4:30 ④ 5:30

【スクリプト】

M: Did the flight arrive on time?

W: No. It was supposed to arrive at 3:30, but it was an hour late.

計算がポイント。高い正答率だと推測されるが、誤答では選択肢②が目立ったように思える。女性の発話にある“... at 3:30, but it was an hour late.”の箇所の聴き取りが十分にできず、聞こえた時刻で答えを出す傾向が下位レベルほど強い。(答③)

【対策】聞こえた音に引きずられないこと。butなどの「談話標識」に注意し、「新情報」を聴き取る。

第2問【対話文応答完成問題】(20語程度の対話を聴き、それに続く発話を選択する問題)

対話の最後の発話を聴き取り、それに対して柔軟に応答する力が求められる問題。対話の最後の発話には、平叙文タイプ、5W1Hタイプ、Yes/Noタイプの3種類が考えられる。

- 問9 ① Oh, I'm so glad you went.
② Oh, you never knew about it?
③ Well, you didn't miss much.
④ Who canceled the meeting?

【スクリプト】

M: I didn't see you at the meeting last night.

W: Meeting? Oh, I totally forgot about it.

平叙文に続く応答文を選ぶのがポイント。この問題は2つの点で難しい。1つは女性の発話にある“I totally forgot about it.”は「(知っていたが)すっかり忘れていた」という意味なので、選択肢②の発話は矛盾した応答となる。もう1つは、選択肢③ not miss much「(機会を逃したが)たいしたことはない」の意味理解が問題となる。(答③)

【対策】対話においては、人称を混乱してしまうことがしばしばあるので注意が必要。

第3問A【対話文質問選択問題】(45語程度の対話を聴き、質問に対する答えを選択する問題)

問14 Where are the people talking?

- ① At the National Museum.
② At the top of the hill.
③ On a bus.
④ On a train.

【スクリプト】

M: Excuse me, but you look worried. Do you need any help?

W: Yes, I want to go to the National Museum. Am I going the right way?

M: Well, yes, but you have to change buses when we get to the top of the hill.

W: OK. Thank you very much.

状況理解がポイント。正答率は高かったと予想され

る。“... you have to change buses when we get to ...” の箇所の正確な聴き取りが必要。(答③)

【対策】事前に質問と選択肢から対話内容を推測し、ポイントを絞った聴き取りをするとよい。

第3問B【会話文図表完成問題】(150語程度の対話を聴き、図表を完成する問題)

高い正答率であったと思われる。時間の推移通りに対話が展開していたので平易であった。

【対策】対話の展開を時系列にメモしながら聴き取る練習が必要。

第4問A【短文内容把握問題】(90語程度の英文を聴き、質問に対する答えを選択する問題)

問21 Who is going to take the net down?

① Coach. ② Jiro. ③ Kenji. ④ Yumiko.

【スクリプト】

Hi, Coach. This is Jiro. Um, I'm calling about Saturday's tennis practice. I know I said that I'd go to the court early to set up the net, but I'm afraid I can't get there by 10:00. The earliest would be around noon. So, I asked Kenji if he could do it instead of me, and he said that would be no problem. He has to study with Yumiko in the afternoon, so he can't take the net down, but I'll be there by then, so don't worry. OK? Bye.

「テニスコーチへの伝言」がテーマで、情報の取捨選択がポイント。できが悪かったと思われる。“... so he can't take the net down, but I'll be there by then, ...” の箇所の聴き取りと代名詞の理解が必要であったため、難しかったのであろう。(答②)

【対策】全体を聴いて、状況を理解することが重要。細部の聴き取りに神経質になり過ぎ、全体が理解できないことにならないように注意する。代名詞の把握、英語の固有名詞の発音、日本語化しているカタカナ語の発音などにも注意が必要。

第4問B【長文内容把握問題】(200語程度の話を聴き、質問に対する答えを選択する問題)

問23 What were people in Bermuda doing when the first hurricane approached?

① Cutting down the palm trees.

② Preparing to leave the island.

③ Suffering from destruction.

④ Taking action to avoid damage.

問25 What happened in the end?

① High waves brought about terrible destruction.

② Neither hurricane hit Bermuda directly.

③ The first hurricane caused a shortage of water.

④ The people's preparations saved Bermuda.

(スクリプト省略)

英文は「バーミューダ海域で起こったハリケーンの話」。問23はレベル間で点差が開いた問題。“... , so all the people were busy preparing to protect their homes against the strong winds and high waves ...” の言い換えとして選択肢④を捉えることができたかどうかのポイントであった。選択肢②のように、聞こえた語彙が選択肢の英文にあることによる誤答が目立ったと考えられる。(答④) 問25の選択肢④は、内容が理解できていないことを裏付ける誤答である。(答②)

【対策】聞こえてくる発話をほぼ同時に口頭で再生する練習(シャドーイング)が効果的。自分の発音を恥ずかしがらず、とにかく遅れずについていき、完全に発話できるようにする。最初は読み上げ速度を遅めに設定し、徐々に速めるとよい。

■今後の学習対策

2006年度のセンター試験は、リスニング初年度ということもあり、抑制を利かせたのかもかもしれないが、2007年度入試に向け徹底した準備は欠かせない。リスニングの攻略ポイントとして、次の5点が挙げられる。①事前に質問、選択肢、図表などに目を通し、内容を推測する力をつけること。②「談話標識」の聴き取りと「新情報」に注意すること。③代名詞の指示対象を把握する練習をすること。④聴き取った情報を取捨選択する力をつけること。⑤日本語化しているカタカナ語の発音に気をつけること。「全部、完璧に聴き取れなければならない」とする必要はない。英語の音を怖がらず、繰り返し英語を聴き、声に出す練習をすることが大切である。

(こもり きよひさ・河合塾講師)